

生命いきいき 野川

野川は国分寺崖線からの湧水を水源とし、国分寺・小金井・府中・三鷹・調布・狛江・世田谷を流れる全長20.5kmの一級河川です。かつて汚れた川を、多くの市民が守り育ててきた川として全国的に知られています。30を超える野川を愛する流域市民グループが上流から下流まで繋がっています。



クワノキの茂る細田橋あたり。佐須用水が流れ落ちる付近は周囲より一層冷たい水が流れる。



右 子どもたちと共に生き物調べ
左 生きている野川それから(けやき出版) / 野川をとりまく四季の風景とこれからの野川の課題にも触れた珠玉の写真譜。野川を愛する市民グループ連絡先も掲載されている。

中流域・調布の野川は洩れない

小金井の野川はかつての河川工事で礫層まで掘り下げられた部分から水が地下にもくってしまつたため、しばしば水洩れが起ります。河川管理者の東京都が過去にブルドーザーで掘り下げた河床に、粘土を貼る工事を施しています。

調布でも干上がった野川に市民が水道水を流しこんだり、多摩川への「救出作戦」騒ぎが起りましたが、現在は調布の野川では、水洩れが起こらなくなりました。深大寺地区や佐須用水からの湧水が途絶えないこととあわせて、調布市や小金井市が熱心に取り組んできた雨水浸透ます設置の効果が出てきたからである、と考えられています。

また、湧水の流れる野川流域には多彩な昆虫・水生昆虫や絶滅危惧種に指定されている魚や植物がみられます。コカゲロウ・ニンギョウトビケラ・ヌカエビ・クロメダカ・ホトケドジョウ・モツゴ・カワセミ・ナガエミクリ・ジユスタマなどに出会える、生きている野川をこれからも楽しみながら守っていきましょう。

「生きていく」野川の生き物

野川に入って川底の石を手にとって裏返すと、素早く移動する薄っぺらな昆虫が目につきます。これがシロタニガワカゲロウの幼虫です。ヒラタカゲロウ科の仲間、平たい体は、流れの速い溪流等で水の抵抗を小さくし、石に張り付いて生活することに適応したものです。もう一種、同じように平たいですが、動きはやや遅い円形の生き物も多く見られます。これはヒラタドロマシの幼虫です。これらの種類は、いずれも「流水性」で、水の中の酸素が豊富でなければ生息できないことから、一般的には「きれいな水」の指標種とされています。

一方、水の流れが緩やかな場所や河岸で水がよどんでいる川底のゴミの間などには甲殻類の一種であるミズムシが生息しています。前述した2種類とは異なり、水に溶け込んだ酸素量の低下にもかなりの耐性があることから、「汚れた水」の指標種とされています。このように野川はごく狭い範囲に「きれいな水」と「汚れた水」のそれぞれを好む生き物が生息していることが特徴であり、生物多様性の視点から見ても、これはとても好ましい状態といえるでしょう。(石川和宏)



ミズムシ



ヒラタドロマシ幼虫



シロタニガワカゲロウ幼虫

花の履歴書

戸部英貞(絵・文)

カワラナデシコ (河原撫子)

ナデシコ科



Dianthus superbus L.

山上憶良に秋を代表する野草の一つに数えられたナデシコは、万葉人に愛されただけでなく、その伝統は平安・鎌倉の時代を経て現代まで引き継がれ、日本の野草を代表する一つになっている。清少納言は、その随筆「枕草子」の「草の花は」(67段)の巻頭で「草の花はなでしこ、唐のは、さらなり、大和のもいとめでたし」とほめたたえている。そしてこの「ヤマトナデシコ」は日本女性の代名詞のように使われ、現代まで生き続けてきた。

名が示すように、河原や野山の陽当たりの良い乾いた場所ならば、日本中どこへ行っても見られた花で、子供の頃、特に興味があったわけではないが、多摩川で遊んだ帰りには、母親の好きなカワラナデシコを摘んで帰ったことが懐かしく思い出される。かつて8月の終わりにになると特別に目的があったわけではないが、毎年

ように数日を蓼科高原で過ごしていた。秋の訪れを告げる草花が咲き乱れる草原に寝ころび、流れる雲や霧に追われ飛ぶアキアカネの群れをぼんやりと眺め、忙しかった夏を振り返っていた。

傍らで咲く、さして豪華でも、派手さもないカワラナデシコがどうして多くの人に愛され、取りざたされてきたのだろうとぼんやり眺めていると、控えめに咲くこの可憐な花には、細やかな美しさを感じさせられる。その切れ込んだ花弁は、微かな風の動きにも、おののくように震え、思わず手を添えたくなくなる。「撫子」とは、まさにこの花にふさわしい名だ。

関戸橋近くの多摩川で思いがけずカワラナデシコに出会った。昔のように河原のあちこちで咲く姿を思い浮かべながら、人の心の中にも咲き続けてほしいと思った。

調布の森を訪ねて

小林 冬樹

深大寺の森

ある会で、「深大寺の森は明治時代より保安林に指定されていて住宅が日陰になつて切りたくても切れない」という話を聞いた。私は「保安林」というのに驚いた。普通保安林とは土砂崩壊防止など山地の防災を目的に指定されると思っていたからだ。市街地に保安林なんて有るのか?しかも明治時代からだという。お寺の裏側にいくと樹林の中に保安林の標識があった。調べると深大寺の保安林は「風致保安林」といい、明治に至り幕府などの旧勢力の支援が無くなり保護が危うくなった社寺の持つ景勝地を新しい法「森林法(M30)」のもとで保護しようとした制度だった。東京都森林事務所によると深大寺の保安



林は大正9年指定だがそれ以前すでに何らかの規制がかかっていて、後追いで組み入れられたことだ。「明治時代から守られていた」という話は本当であるようだ。東京の保安林は深大寺から東にはない。周辺市にも無く、丘陵部と山地部がほとんどだ。深大寺の保安林は境内の北側の樹林全てと西側の万霊塔付近そして深大寺通り南側の森も指定され寺と門前を包むようにある。植物園になった寺所有の森を除き寺の所有地内のまとまった森はすべて保安林としたようだ。

深大寺は古い寺ではあるが現在のように毎日多くの参詣者を集める寺ではなかった。名物のそばも時折訪れる参詣者の注文に門前の住民が特別に振る舞う程度だったという。しかし深大寺は「風致」のある名所であるという自覚が古くから有ったことを「風致保安林」は証明している。深大寺の森は連綿とつないできた人々の「風致」の自覚や愛情と近代の法により守られてきたのだ。

現在深大寺の周辺は転換期である。緩衝的機能を果たしてきた農地の宅地化、観光客の増加と観光の再評価と注目、湧水など基盤的かつ生命を大きくむ自然の重要性の再自覚など新たな課題への対応や行動の必要が言われる。住民や市の参加する「まちづくり」も始まっている。最近さかんに見る「国費」を期待したお化粧だらけの観光地づくりではこまる。先達が考えた「風致」ある環境を残そうという意志を継承した新たなルールが求められている。

ちょうふあちこち 多摩川自然情報館



7月19日に多摩川を中心とした自然環境を学べる展示室や学習室のある情報館がオープンしました。初日は移動水族館も登場、ビニールプールで魚と触れ合う子供達の笑い声が響きました。分かりやすい展示の他に草花や野鳥を題材にしたプログラムは毎月変わるそうですし、遊びながら学べるイベントも用意されています。これから先、どんな風にこの施設を活用していくかは市民の力次第。日活撮影所前からさらに多摩川沿いに徒歩6〜7分下流へ歩いた目立たない場所にありますが、調布の自然情報の発信基地としても期待したい所です。

◆カニ山の会

7/10(土) 晴れ 参加者7名
本日の整備作業確認のために林内の現状を見回った。その後2人づつ気になった場所の整備作業を行うことに。

・広場から入って来る最初の所に何本もの枝が置かれ見苦しいので、はつきり進入をふさぐような丸太を設置した。防腐剤など使えないので腐ったらその都度作り直していくしかない。

・南斜面の東入口付近が暗いが、シユロは都の記録樹木なので葉のみ切り落とした。アオキは完全に伐採するのではなく、適度に剪定できたので小鳥にも良い結果になったと思う。



葉のみ落としたので棒状になってしまった数本のシユロ



通路に沿って枯れ木を設置

・上段部のツバキが暗さを増しているので伐採した。

終わりの話し合いに参加したメンバーから「先日桜ヶ丘公園内を視察したが、シユロが殆ど無くて驚いた。都内の自然教育園はシユロだらけになっており、カニヤマもシユロが多いので、それだけ都市に近い雑木林ということだろうか。」との感想があった。(活動報告より)

◆若葉緑地の会

6/13(日) 参加者13名
体操で体をほぐし、上部のブッシュ状態になった草を全員で刈りました。ホタルブクロの花が咲いていました。花壇の手入れもしました。

心地よい風が若葉の森を吹き抜けていました。6/24(木) 予備活動日

参加者4名

緑地内の杉のカウントをする。上部の草刈り。ミスジコウガイビル見ました。

7/11(日) 参加者8名
名称を若葉の森の会から「若葉緑地の会」に変更しました。よろしくお願いします。

上部奥の残った草刈り。そして、夏のアズマネザサ刈り。(大坂沿い)この場所は西日がよく当たるので、伸びるのが早く、年に2度ほど刈りこん

でいますが、空き缶、ペット等のゴミもたくさん出てきますので、困りものです。萌芽更新した新芽がうどんこ病にかかっているのが、見受けられました。



梅雨どきなので、茸類が多いようです。7/22(木) 予備活動日 参加者4名

前回に続き刈り残した大坂のアズマネザサを刈りました。ゴミも出てきました



市民活動の記録コーナー

が、10センチほどのナナフシも出てきました。日の当たる所のヤブミヨウガは元気ですしキイチゴの赤い実は心なごみます。(住田)

◆入間・樹林の会

6/20(日) 参加者8名

人数が多かったので駐車場横の下側斜面の笹刈りを行いました。久しぶりの作業で心地よい汗と充実感にあふれメンバーの表情も豊かになっていました。民地との境界付近では、あじさいがよく咲いていました。ヤブミヨウガの群落が思いのほか広がりました。アジサイ・ドクダミ

と白い花が目につきます。坂下からの良い香りは、これまで気がつかなかったアカメガシワの雄花が咲いていたものでした。



7/11(日) 参加者8名

雑木林広場の駐車場側の笹刈りをしました。夏休み前でしたが、二人のジュニアと新メンバーの参加で、作業もはかどりました。楽しかった、頑張りすぎて疲れた、すつきりした、初めてだったが達成感があったなどの感想で、これに懲りないよう8月は方形枠調査と作業は軽めにする予定です。一カ月間であつというまに樹木や草の勢いが増し、特に民家側のヤブミヨウガは丈も

伸び白い花が咲き乱れ群落化してしまいました。アジサイが目立たなくなるので、9月には刈ることにします。花はヤブミヨウガ・アジサイ・ハエドクソウ、マンリヨウが、昆虫はカタツムリ、コガネムシ、鳥はメジロ・シジュウカラ・ヒヨドリでした。(安部)

◆環境モニター

7/3(土) 野川植物観察

野川おかね橋から下流に向かって河原を歩く。



今日の講師は以前からモニターサポーターとして参加している石川さん。

観察された植物はオオブタクサやコセンダングサ、アレチウリなど帰化植物が多い。それでもアレチウリは水を被ると枯れてしまうのでそれほどの脅威ではないとのこと。オオカワジシャは水辺特有の植物だが、これも帰化植物。セリやタデの他は在来の水辺植物があまりみられなかったのは残念。

花の少ない時期だったがベニシジミ(写真)ヤマトシジミ、クロアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウ、スジグロシロチョウなどの蝶類が見られた。

また、数名が長靴で川に入り網ですくうとモツゴ、アメンボ、ヒゲナガカワトビケラ等が入っていた。その他、石の下に棲むトビケラの巣、ヒラタドトムシ、シロタニガワカゲロウの幼虫、ヒルやプラナリアなどの水生昆虫も見ることができた。(NK)

ちょうふの自然みつけた!

環境市民会議メンバーのメーリングリストより

6月21日 昨日、神代植物公園の伐採枝置き場の湿ったところでアオスジアゲハを見かけました。

「都会で普通に見られる蝶」とのことですが私には見るチャンスが減ったように思えるのですが…(NK)

アオスジアゲハの食草はクスノキ科の植物で、調布市は市の樹に指定され、いたるところに植えられているので都内でもたくさん棲息していますが、樹が大きく、その上空を飛翔するので気づきにくいですが調布のアゲハでは一番多いかも知れません。クスノキの葉をよく見ると食跡があれば近くに幼虫がいるかもしれませんよ(HT)

6月27日 一週間ほど前からシジユウカラの子供の声。

今日、4羽のシジユウカラ(1羽は親かな?)が家の周りを飛んでいきました。(NK)

7月14日 夕刻多摩川住宅グラウンドのそばでセミの声(AS)

7月14日 ふと庭を見ると何やら光る虫が飛んできた。お尻からとがった管を出し、サクラの伐採木をゆっくり登り降り。産卵場所を探しているのでしょうか。結局産卵した風には見えませんでした。高く飛んで消えました。(NK)



去年、「調布の生き物調査」の日に、カニ山の広場をビューンと音を立てて横切って飛んでいったのが、タマムシでした。大きい昆虫で、飛翔姿もかなり目立ちました。(ME)

今年の7月17日の生き物調査の日も自然広場上空を飛んでいるのが見られました。

7月14日 いつもの武蔵野の森公園でトンボを見ました。大きさはアカネほどでしょうか。(AS)

7月14日 18時半頃 かに山でかなかなと鳴き声が聞こえました。(YK)

7月14日 野川公園の自然観察園でハルゼミ(?)だと思つんですが近くの梢で鳴き出すのを聞きました。それと「鷺山」と呼ばれている崖線林の様子を見ようと、

卸売市場の橋から野川の左岸の崖沿いの道を遡ってゆくと、一軒の民家の裏の崖線林に沢山の白い鷺が集っていました。ざっと見て50羽はいたんじゃないでしょうか。(TS)

7月19日 武蔵野市場は以前からツバメの巣が多くありましたが、今年生まれたツバメが群れて20羽以上になっていました。(YO)

7月26日 庭先のキンカンに見慣れぬアゲハチョウが飛来、窓越しに眺めていると後翅に白斑が見られ、モンキアゲハが来たのかと前翅の根元に三角の赤色紋があり、無尾なので凶鑑を見るとナガサキアゲハのメスであることが判った。

地球温暖化で熱帯地方の蝶が北上していると聞いてはいたが台風で運ばれたのではなくびっくりさせられた。産卵行動をしていたが、卵は発見できなかった。(HT)

ナガサキアゲハはここ数年定着しているようです。先日実施した生き物環境調査でも確認できました。(KI)

今年の東京の梅雨明け発表は7月17日でしたが、14日からはよい天気が続きました。昆虫達も待つてました、と出てきたのが14日にはたくさんメールをいただき、この後もセミの声報告は続きました。



元気一杯の子供たちとたくさんの虫、探しました!



7/17 ピーカンの空、第3回調布の生き物環境調査に集まった十数組の親子。

野草園前と自然広場で講師の石川先生、宮治先生と共にたくさんの昆虫を追いかける。今回もアカボシゴマダラやツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハといった南方系のチョウはもちろん、シジミチョウの仲間やシロチョウの仲間、そしてシロテンハナムグリやクワガタなどの甲虫類、オオヒラタシデムシという死骸の掃除屋さんなど色々な昆虫をつかまえることができた。カブトムシはカラスにつつかれた残骸と2匹の幼虫。そしてタマムシは上空高く飛んでいるのが見えた。その後、移動した田んぼではホトケドジョウを見ることができ、湧水の流れる佐須用水に感謝。(取材:広報PJ)

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへおいで下さい。

● 8/15(日) 9:30 ~ 12:00

・方形枠調査

● 9/19(日) 9:30 ~ 12:00

問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接野草園へ。

● 8/14(土) 10:00 ~ 12:00

● 9/11(土) 10:00 ~ 12:00

問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

● 8月の作業はお休みです。

● 9/12(日) 9:30 ~ 12:00

・植物観察、その他

問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

野川とハケの森の会

8月の清掃は延期になりました。

● 9/26(日) 10:00 ~

・自然観察会 野川↓深大寺↓神代植物園

集合 谷戸橋そば「かわせみ館」前

問合せ: 070-5566-3437 大山

市民発 ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は 2009.3.15 に設立された市民組織「ちょうふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載しています。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆「自然だより」は調布市環境部(市役所8F)、市図書館10館、地域福祉センター、あくろす2・3F、たづくり11Fみんなの広場、郷土博物館、実篤記念館、のほか、曼珠苑さん、みさと屋さん、などに置いてあります。ひきつづき応援団募集中です。